



常澄中学校だより

「常に澄む」

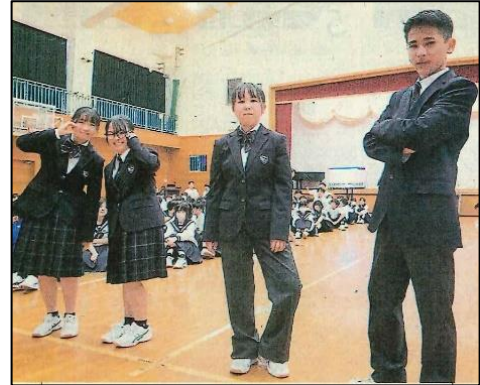
令和6年7月5日

No. 3

「常に正しかれ」「常に豊かなれ」「常に気高かれ」

伝統を大事にしながら、新しい挑戦を!!

7月2日(火)の「茨城新聞」に「新制服 生徒が考案」「ズボン・スカート選択可能」という見出しで、制服の改正が取り上げられました。生徒会が中心となって、多様性に対応するための新制服ができたこと、エンブレムやボタンのデザインには常中生のアイデアが活かされたことなど、生徒の活躍が書かれています。生徒全員が、一生懸命考えてくれたこと、そしてそれが新聞に取り上げてもらえ、多くの人にその活躍を知ってもらえたこと、大変うれしく思いました。しかし、残念ながら、紙面の関係からか「ことばが足りないな」と感じるところがありましたので、学校だよりで、補足したいと思います。



まず、新制服決定までに、地域・保護者の皆様のご理解があったことを忘れてはいけません。66年間常中のシンボルとなっていた制服を変えるということは、伝統の一部をそこで断ち、新たなスタートを切るという意味になるからです。地域に慣れ親しんできた伝統を変えることは、学校や生徒の思いだけでは達成できるものではありません。しかし、全ての生徒が安全に、安心して学校に通うことができるようにするためには、多様性に対応することを大切にする必要があったのです。地域・保護者の皆様は、その今の情勢を受け入れる必要があると判断し、変更を承諾してくださいました。そして今回の制服改正を実現できたのです。大きな決断をしてくださった地域・保護者の皆さんに感謝したいです。

次に、新制服のデザインの中に、常中らしさ、常中の伝統を残そうと考えてくれた生徒の皆さんに感謝です。その一つが、制服検討委員会の場で大人に説明する生徒会代表の二人から、「今使っているリボンと同じえんじ色を残したい」という意見が多くあったという話を聞きました。この時、伝統を守りつつ、現在の情勢に合った変更をしたいという思いが、生徒の中にあることが分かりました。地域を愛する心は多くの生徒に育っていると分かった瞬間でした。その思いをもっていてくれること、本当に素晴らしいと思います。

こんなエピソードが新聞に掲載されていればよかったのですが、前述した通り紙面の関係で難しかったのだらうと思い、補足させていただきました。

制服変更は来年度、令和7年度入学生からとなりますが、生徒のもっている郷土を愛する気持ちを大切にし、地域・保護者の皆さんの常澄中に通う生徒を支えるという変わらぬ思いを受け、「地域の中の学校」として、今までと変わらず、いや、それ以上に生徒が活躍できる学校にしていきたいと思えます。